

令和7年度 出雲サンサン保育園 事業報告

1. 主要事項

今年度は、子ども一人ひとりを尊重した保育を基盤とし、安心・安全な環境の中で子どもが主体的に育つことを大切にしながら、保育・保健・食育・環境整備・人材育成・防災防犯の各分野において取り組みを進めてきた。

保育においては、子どもの姿に寄り添いながら主体性を引き出す関わりを重ねるとともに、保護者との連携や地域との関わりを通して、子どもの育ちを多面的に支えることができた。特に、包括的性教育や食育、地域交流などの取り組みを通して、子どもたちの意識や興味関心の広がりが見られた。

また、職員間の連携や研修の充実により、チームとしての意識や保育の質の向上が図られつつある。日々の振り返りや情報共有を重ねることで、課題に対して組織として取り組む姿勢が定着してきている。

安全面においては、感染症対策や事故防止、避難訓練等を通して、状況に応じた柔軟な対応力が養われた。一方で、情報共有の徹底や役割分担、保護者への伝え方などについては課題も見られ、引き続き改善が必要である。

今後は、これまでの実践を基盤としながら、職員一人ひとりの意識向上と組織としての連携をさらに深め、より質の高い保育の提供と安全で安心できる環境づくりに努めていく。また、保護者や地域との協働を大切に、子どもを中心とした保育のさらなる充実を目指していく。

2. 保育事業

1) 子ども一人ひとりを尊重した保育について

- ・子ども主体の保育を基盤とし、子どもの姿や興味・関心を丁寧に捉えながら、遊びや環境を工夫することができた。特に言葉での表現が難しい年齢の子どもに対しても、表情や行動から思いを汲み取り、一人ひとりに応じた関わりを意識した保育を実践した。
- ・包括的性教育の取り組みでは、着替えの際にパーテーションやカーテンを活用し、プライベートゾーンを大切にすることを繰り返し伝えることで、子ども・職員ともに意識の高まりが見られた。子ども自身が自分の体を大切にしようとする姿も少しずつ見られるようになっている。

2) 安心安全で信頼のおける保育について

- ・保護者との密な連携を図りながら日々の情報共有を行い、信頼関係の構築に努めた。個別の状況に応じた対応を心がけるとともに、行政との連携も円滑に行えるようになり、支援体制の充実につながっている。
- ・人権への配慮についても職員間で意識を共有し、日々の保育の振り返りを通して、子どもを尊重する関わり方の継続に努めた。

3) 地域と共に子どもの育ちを支援する取り組みについて

- ・年間を通して地域の方々に協力をいただき、職員だけでは伝えきれない学びや経験を子どもたちが得ることができた。今年度はボランティアの方々に加え、地域との関わりがさらに広がり、新たな活動にも取り組むことができた。交流を通して多くの気づきや学びがあり、今後も行事や活動の枠にとらわれず、地域と連携した取り組みを継続・発展させていきたい。

4) 保護者支援と子どもの育ちの共有について

- ・保護者との日常的なコミュニケーションを大切にしながら情報共有を行い、親子活動においては悩みや思いを共有できる場を設けることができた。保護者が安心して子育てについて語り合える環境づくりに努めたことで、相互理解の深まりにつながった。今後も子どもを中心に据え、保護者と園が協力しながら育ちを支えていく関係づくりを継続していく。

3. 特別保育事業

1) 一時預かり事業

- ・年間実利用児童数は1名。延べ人数は138名。
- ・子育ての孤立化解消等の支援、又は保護者の都合による家庭内での保育が困難な場合の支援を継続して行っていきたい。

2) 延長保育事業

- ・年間実利用児童数は28名。延べ利用人数は560名となった。
- ・仕事等により保育時間内に迎えに来られない場合に、必要に応じた保育支援を継続して行っていきたい。

4. 人材育成に関する事業報告

1) 職員の資質向上と人間力の向上について

- ・日々の保育や行事を通して、職員一人ひとりが周囲の状況を見ながら主体的に動く姿が見られ、協力し合う中でチームワークの向上につながった。また、職員間で相談しやすい雰囲気が醸成されつつあり、互いに支え合いながら保育に取り組むことができた。

2) 園内研修の充実とチーム力の向上について

- ・復命研修で得た学びをクラス間で共有し、再確認することで保育の質の向上につなげることができた。
- 一方で、園内全体での共有が十分でない場面も見られたため、今後は少人数グループでの研修や意見交換の場を計画的に設け、より多くの職員が主体的に学び合える環境づくりを進めていく必要がある。

3) 園内外研修への参加と自己研鑽について

- ・研修案内が回覧されることで、職員が自らの興味・関心や課題に応じて主体的に研修を選択し、参加することができた。学んだ内容を保育に活かす意識も高まっており、継続的な自己研鑽につながっている。

4) 保育システムの活用による業務効率化について

- ・保育システムの活用により、業務の効率化が図られつつある。今後もさらなる活用方法を検討し、職員の負担軽減と保育の質向上の両立を目指していく。

5) キャリア形成と自己実現の支援について

- ・各職員が自分の関心や課題に応じて研修を選択できる環境が整い、自己成長への意識が高まっている。今後も職員が目標を持って働けるよう、キャリアアップにつながる支援を継続していく。

6) 組織の一員としての役割理解と全体把握について

- ・行事においては、職員一人ひとりが役割を意識しながら周囲と連携し、園全体で協力して運営

することができた。一方で、行事内容について担当者のみが把握している場面も見られたため、今後は情報共有の方法を見直し、全職員が共通理解を持って取り組める体制づくりが課題である。

5. 保健

1) 健康管理について

- ・毎朝の視診や保護者との情報共有を丁寧に行い、子どもの健康状態や発育・発達の把握に努めることができた。体調の変化が見られた際には早めに保護者へ連絡を行い、家庭と連携しながら適切な健康管理につなげることができた。

2) 体調不良時・緊急時の対応について

- ・体調不良や怪我が発生した際には、速やかに上司へ報告し、マニュアルに基づいた対応を行う体制づくりに努めた。一方で、現場判断で対応してしまった事例もあり、些細なことでも必ず報告・相談を徹底することの重要性を再認識した。今後は職員間での共通理解をさらに深めていく必要がある。

3) 感染症の予防と対策について

- ・感染症流行時には、保護者への情報発信を行い、家庭と連携しながら感染拡大防止に努めることができた。また、感染状況に応じてクラス間の交流を控える、食事場所を変更するなど、状況に応じた臨機応変な対応を行った。行事や活動についても延期等の判断を行い、安全確保を優先する対応ができた。

一方で、登園自粛の協力依頼や感染状況の伝え方については、保護者の理解を得る難しさもあり、今後の課題である。伝え方の工夫や丁寧な説明を継続していく必要がある。

- ・感染症流行前にマニュアルの確認や研修を実施することで、計画的な予防と対応につなげることができた。

4) 健康増進への取り組みについて

- ・けんこうだよりの配信や連絡ボードの活用により、園内外の感染状況や健康に関する情報を発信し、家庭との共通理解を図ることができた。保健年間計画に基づき、健康診断や各種検査、身体測定等を実施し、子どもの健康状態の把握と維持・増進に努めた。

今後は、0歳児クラスにおける心拍測定器の導入について検討し、より安全な保育環境の整備を進めていく。

5) 子どもの虐待防止について

- ・日々の関わりの中で家庭状況の把握に努め、ネグレクトや虐待の早期発見に向けた視点を持って保育にあたった。必要に応じて行政や関係機関と連携し、子どもの安全確保に努める体制づくりを行っている。今後も継続して職員間での情報共有を行い、未然防止・早期対応に努めていく。

6. 食育

1) 食べる意欲を引き出す取り組みについて

- ・和やかな雰囲気の中で、友だちや職員と一緒に食べる楽しさを感じられるような環境づくりに努めた。行事や季節に合わせた献立や行事食の提供により、食事の時間がより楽しいものとなり、食を通して季節を感じる機会につながった。

また、年長児が給食時に献立の放送を行う取り組みを通して、食材やメニューへの興味・関心が高まる姿が見られた。

- ・親子活動において給食の様子を保護者に見てもらえる機会を設けることで、園での食事の様子や取り組みを共有することができ、家庭との理解を深めることにつながった。

2) 五感を使った食体験を通した学びについて

- ・菜園活動では、農家の保護者の協力を得て、畑づくりや苗植え等を行い、より充実した活動となった。収穫や栽培の過程に関わることで、食べ物への関心や感謝の気持ちを育むことができた。

3) 味覚を大切にしたい給食の提供について

- ・見た目にも工夫された行事食は、子どもたちの興味関心を高め、食べる意欲の向上にもつながった。

4) 個々への配慮について

- ・栄養士と保育士と連携し、子ども一人ひとりの発達状況や咀嚼力に応じた食事形態の検討・共有を行い、無理のない食事の移行を進めることができた。離乳食についても家庭と連携を図りながら個別に対応することができた。

また、食物アレルギー児への対応についても、保護者と十分に相談・共有を行いながら、安全に配慮した給食提供を行うことができた。

7. 保育環境

1) 安心・安全で快適な保育環境の整備について

- ・日々の安全点検や環境確認を通して、危険箇所や修繕が必要な場所の早期発見に努め、必要に応じて速やかに対応することができた。施設や設備の老朽化が見られる中でも、職員が破損や不具合に気づいた際に迅速に報告する体制が整い、安全で安心できる環境づくりへの意識が高まっている。

また、テラスの水道設備の改修により、子どものプライバシーに配慮した環境整備が進み、より安心して生活できる環境となった。

- ・ヒヤリハットや事故報告については、その日のうちに職員間で共有し、原因の検証と再発防止策の検討を行うことができた。子ども同士のトラブルから怪我につながるケースについても、環境構成を見直すことで未然防止につなげる取り組みができた。
- ・環境美化については、「古くてもきれいに使う」という意識が職員間で共有され、日常的な清掃や物品の丁寧な取り扱いが習慣化してきている。
- ・省エネや資源の大切さについては、ペーパータオルの使い方や水の使用について、絵本等のツールを活用しながら子どもたちにも伝えてきたことで、物や資源を大切にする意識が少しずつ育ってきている。

一方で、省エネやコスト意識については職員間でさらなる意識向上が必要であり、引き続き取り組みを進めていくことが課題である。

今後も、現場の職員一人ひとりが気づきを共有し、改善点について積極的に意見を出し合いながら、より良い保育環境の整備に努めていく。

8. 防災・防犯

1) 避難訓練の実施と実践力の向上について

- ・ 毎月の避難訓練を災害別に実施し、今年度は日程を非公開、シナリオなしで行うことで、実際の災害を想定した訓練とすることができた。その結果、職員や子ども自身の気づきや課題が明確となり、訓練後すぐに振り返りを行うことで学びにつなげることができた。

また、職員一人ひとりの防災意識が高まり、訓練中の声掛けや連携など、実践的なコミュニケーション力の向上も見られた。一方で、対応や役割が一部の職員に偏る傾向も見られたため、今後は全職員が役割を理解し行動できるよう改善していく必要がある。

2) 非常時連絡対応について

- ・ 緊急メールを活用した連絡体制の確認を行ったが、保護者の未読や返信に時間を要するケースがあり、確実な情報伝達に課題が残った。また、職員の防災メールにおいても返信漏れや未読が見られたため、緊急時を想定した意識の徹底が必要である。今後は、繰り返しの訓練や周知を通して、迅速かつ確実な連絡体制の強化を図っていく。

3) 安全管理マニュアルに基づく取り組みについて

- ・ 「安全管理マニュアル」を基に、災害時の行動について確認を行い、職員の安全管理に対する意識向上につなげることができた。実際に地震を経験したことで、具体的な課題が明確となり、防災への意識が一層高まった。

また、防災リュックの中身の見直しを行い、必要物品の追加（ミルク等）を行うなど、実態に即した改善を図ることができた。

4) 保護者・地域と連携した安全確保について

- ・ 災害発生時には、保護者の迎えまで子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに努めた。今後は、保護者への引き渡し方法や連絡体制について、より具体的な共有と理解を深めていく必要がある。

5) BCP（業務継続計画）に基づく対応について

- ・ 非常時においても保育を継続するための体制について確認を行い、実際の災害経験を通して課題を明確にすることができた。今後は、園外保育時の報告・連絡・相談体制の見直しを含め、より実効性のある体制づくりを進めていく。

また、防災意識の向上を図る取り組みとして、防災食を実際に体験する機会を設けるなど、子ども・職員ともに具体的に学べる活動の充実も今後の課題である。